

おとなへの 自覚あらたに

祝福された734人

人。昨年より三千四人減で、教育長の式辭に始まり、記念品の贈呈、成人を代表して、井口善喜君と橋田純子さんが青年の誓を述べ、金堂市長らのお祝いのこと

ば、来賓の紹介があり、「成人となって」の感想文と、ことし市が始めて募集した写真の入選者の発表と表彰、続いて優秀賞の仙頭敬子さんの感想文の朗読があり、そのあと青年の合唱で、ひとまず式を終り、十市青年団員による牛踊



おとなとなった自覚と、自ら社会で生き抜こうとする若い人たちの祝いを、一月十五日、市民体育館で約六百人が参加しておこなわれました。

ことし祝福されたおとなは七百三十四人(男、三百八十八人、女三百四十六

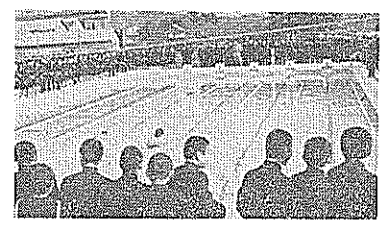


親子3人でなかよく成人式へ

りなど、はれやかなひとときを過ごし午後一時すぎに散会しました。

なお午前十一時から献血車々のぞみ々母を迎えて、市献血推進会の人たちが成人を記念しての愛の献血の呼びかけを行ない、六十人にあまゝる人たちが献血に協力するなど、かなりの成果をあげました。

話題

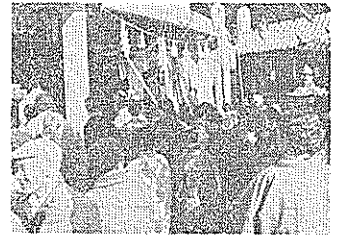


附属施設として更衣室・目洗場、シャワーなどが備えられ、総工費910万円がこの1月に竣工したものです。

☆ このほど七つの子供会が福生地区に誕生しました。子供会をより効果的にするため、市子供会連絡協議会委員の笠原清一、公文護さんを招き、子供

とPTA約140人が参加し、行事日程・会員・会費などについて研修会が行なわれました。

☆ にぎわう琴平神社(十市)…一月のある日曜日、初詣の善男善女で神様もてんこまの忙がしき、これは南国市北部(瓶岩土倉、久礼田、国府など)の人たちが、毎年初詣をしているもので、当日は300人が観光バスを連ねて繰りこんだものです。



☆ 在職40年を一っの小学校にとめた内田菊治先生の顕徳碑除幕式が行なわれました。

当日、才谷屋(坂本龍馬)の流れをくむといわれる先生の蔵書・古地図などが披露され、おしえ子ら約70名も昔をしのんでいました。



☆ 香南プール……ようやくできた自分たちのプールに生徒たちは胸をはずませています。このプールは25メートル・6コース(循環式浄化滅菌装置付)で

優秀賞に仙頭敬子さん

☆……新成人者感想文……☆

ことし成人式を迎えられた新成人者の意見、人生や社会、政治観など「成人となって」の感想文と元氣な若人の姿、選挙、公害などをテーマとした写真をさきに募集

していましたが、応募者は僅か二十余点でしたが、それぞれ二十才の喜びと、成人への期待と決意が感じられました。

新成人感想文

私の歩んできた道には、数々の樹木が植えられてきた。それは、振り返ればどの木々もみな美しい。だが、その中にいい知れぬ悲しみがあったことは、誰れよりもこの私がよく知っている。

あれから三年……。この三年間に、幾度か母の入院生活もあり、一人暮らしが続いた中で涙を流した夜は数知れぬ。けれど、その中で少々のことでは弱根を言わない、強い心ができた。父の死によって私は、それまでより



楽しく日々を送っていた私達家族に、たった一人の妹の死がおとづれた。それは、私が十四歳の時だった。初めて、人間のはかなさを目の当たりに知らされた。そして、私が十七歳の時、再び尊敬する父を失ってしまった。何故こんなにも、私だけが悲しみばかり味わうのかと、くやしさを覚えた。あの時の悲しみ辛さは、今でも思い出せばむらむらとこの胸に湧いて

も人間としての強さを持てた。しかし、決してひねくれることはなかった。父や妹は失なっていたけれど、私は不幸だとは思わない。それは、二人の死によって、生きていることの尊さがわかったから。

父母のおかげで私は、あとわ

入賞した人たち

作文

- 優秀 仙頭敬子 東崎
- 佳作 和泉紀子 国分
- 佳作 神田 彰 浜改田
- 佳作 永吉 裕 廿枝

写真

- 佳作 森木範明 久礼田

青年の声

原稿募集

短歌、俳句、詩、コント、あなたのご意見などをお寄せください。

市広報委員会

成人となって

東崎 仙頭敬子

ずかで短大を卒業し、社会人としての第一歩を踏み出す。私は、保母として毎日幼児の顔を見ながら、楽しく生活する。実習も終えた今、この仕事に打ち込む意欲が前よりも湧いてきたことは確かである。小さな芽を、大きく健やかに育ててい

達は、立派だと何度も思った。しかし、私もあとわずかでその人達の仲間入りをする。この世に、命を授けられて二十年……。二十歳になってとても責任を感じる。今までは違った気持ちの責任感である。この気持ち

は忘れてはいけないことだらう。そして人間として忘れてはいけないことは、真心とだと思ふ。このことほど美しく輝くものはないと思ふ。時として、人間はこの心を忘れ欲望に走り、悪いことでも平気で行なってしまう。それを思うと、とて

も悲しくなる。人間一人では、決して生きていけない。自然が社会が、両親が、友人があればこそみんな生きていくのだから……。このことに、感謝する心を持たなくてはならない。両親を尊敬し愛し、友を愛し、國家を愛さなくてはならないと思ふ。私自分これらは常に心に刻み込まれている。今は、母と二人になってしまったけれど、幸せな毎日を送っている。母が、いつまでも健康でいてくれさえすれば、それだけでいい。健康と

はすばらしいものであるから。これから歩む私の道に、小さくても根のしっかり張った樹木を、一本一本確実に植えていきたい。そして再び振り返った時、どの木々もみな美しく、私の目を休ませてくれることを信じて……。